

「つるフィールド・ミュージアム」は、地域（フィールド）の自然や人びとの出会いを楽しみ、生きものとの交流を通して学びを深め、新たな人間関係を創造する拠点です。それを実現するために、新棟のテーマを「楽しむ」「学ぶ」「つながる」としました。建物を取り囲むように配置されたテラスには「まちの縁側」としての機能をもたせ、生きものとの交流ができるピオトープ空間や、子どもたちも楽しめるテラスも設けられています。木質を基調としたあたたかみのある室内で学びを支える環境を整えています。

新棟「つるフィールド・ミュージアム」とは

新棟「つるフィールド・ミュージアム」は、世界にも交流と対話の輪を拡げていきたいという思いが込められています。新棟の「つる」という名称には、2003年に地域交流研究センターが発足し、引き続き発展させていくことを目的として、人間的なつながりを大切にする「つる」をコンセプトとして、2026年に完成予定の「つるフィールド・ミュージアム」に見立て、身近な自然や文化に親しみ、じかに触れ、学び合う「つるフィールド・ミュージアム」を築き、さまざまな実践を蓄積してきています。地域そのものを博物館（ミュージアム）として、開学以来、地域や人びとの交流をもとに豊かな人間関係を

「つるフィールド・ミュージアム」は



TOPICS 新棟「つるフィールド・ミュージアム」館内NEWS



いのちと共育を探究する「資料室」が誕生しました

「つるフィールド・ミュージアム」の1階の中央部には「資料室」があります。「つるフィールド・ミュージアム」の歴史と理念が込められるように、「都留市自然博物館」構想を提唱した大田堯元学長と「都留市フィールド・ミュージアム」構想を提唱した今泉吉晴名誉教授に関連した資料を収める予定です。すでに大田堯先生の資料の搬入が始まっています。これらの資料が多くの人の研究や探究にも資するよう、デジタル・アーカイブの作業も進行中です。



自然の賑わいを感じるバタフライガーデン（蝶の庭）

「つるフィールド・ミュージアム」には自然の賑わいを感じられるような生きものの生息場所（ピオトープ）があります。なかでも蝶が訪れるバタフライガーデンが人気です。都留市は蝶の種類が多いことで有名ですが、その蝶が訪れるような吸蜜植物や幼虫が食べて育つ食草の手入れを始めました。この庭には、オミナエやキキョウなど古典や文学に登場する植物もあります。ぜひじかに触れて確かめてみてください。

【写真】右：色とりどりの植物が咲きほこり蝶を呼ぶ 左：バタフライガーデンを訪れたアサギマダラ



くつろげる絵本コーナーが誕生しました

子どもたちに自由な姿勢で絵本を読んでもらえるよう、ライブラリの絵本コーナーにコルクマットを敷きました。マットの入り口には、小さな靴を置きました。これは禁止というサインを出さずに、「靴を脱いでマットを使ってね」という意味が伝わって欲しいと思ったからです。感想ノートも設置しています。ここには子どもたちの声が優しい文字やイラストで記されています。ライブラリにある図鑑の写真を模写したり、どんな発見があったかを記入したり、見ているとこちらまであたたかな気持ちになります。

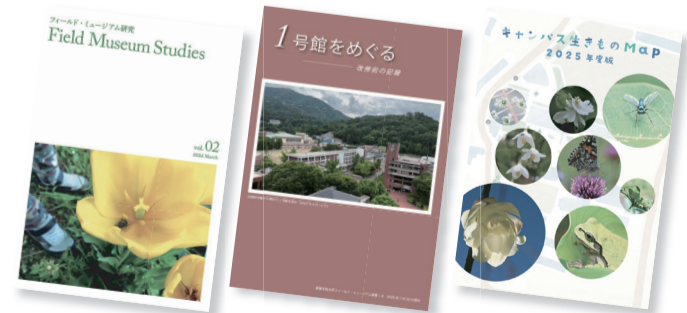
TOPICS Tsuru副専攻プログラム「フィールド・ミュージアム研究」

Tsuru副専攻プログラムは、各学部の学科で学ぶ専攻となる専門領域だけでなく、学部・学科を超えて興味・関心のある分野を学ぶことをおもな目的としています。地域交流研究センターでは「フィールド・ミュージアム研究」プログラムを開講しています。

地域交流研究センターでは、都留文科大学と地域をつなぐ活動と研究に取り組むための拠点として、地域全体を博物館（ミュージアム）に見立て、フィールドで人びとの暮らしやムササビなどの自然にじかに触れ、学びを深める「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進してきました。

本プログラムの特徴は、地域交流研究センターが長年にわたり蓄積してきた実践・探究活動を活かし、自然科学や人文・社会科学といった多様な学問領域を総合して地域の現代的な課題に迫ろうとするところにあります。こうしたアプローチをとおして、単なる機械的暗記とは異なる「生きた学び（知識や技能を生活のなかで活かすことができる学び）」を体験し、卒業後に地域の担い手となり得る力量の修得を目指します。

この「フィールド・ミュージアム研究」プログラムは、オムニバス形式の「フィールド・ミュージアム入門」（できるだけ最初に履修することを推奨します）と「フィールド・ミュージアム研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「フィールド・ミュージアム演習Ⅰ・Ⅱ」構成されています。このうちフィールド・ミュージアム演習Ⅰ・Ⅱは時間割外で教員の指導のもとに学生が自主的に研究を行う形式のゼミナールです。



▲「フィールド・ミュージアム演習Ⅰ・Ⅱ」ではさまざまな成果物が制作されています



[2025年度版]



都留文科大学 地域交流研究センター

つるフィールド・ミュージアム

TSURU FIELD MUSEUM



富士山

●御師文化の再活性化事業

富士山信仰を支える御師の文化を再活性化させようというプロジェクトです。

●ムササビライブカメラ

24時間、ムササビの様子を配信しています。子育ての様子も一緒に観察しよう!



●うら山観察会

学生中心のスタッフで都留の動物学研究成果を取り入れ子どもたちと自然との橋渡しを目指しています。

●留学生自然観察会

留学生に、都留の自然を体感してもらうための観察会です。学生がガイドや通訳を担当し、ムササビの観察などを行っています。

●ムササビ観察会

子どもから大人まで大人気の観察会。森に出かけて生きたムササビとの出会いを楽しもう!



今宮神社

ムササビ

●夏狩湧水群

●湧水さんぽ

本学教員の解説とともに、学生や市民のみなさんと夏狩・十日市場付近の湧水を巡り歩きます。



●「子どもフィールド・ノート」

市内の子どもたちが、地域の自然や人びとの暮らしを見つめ、記録する取り組みです。



●公開講座

地域の方々も参加できる、一般に開かれた講座です。子どもかけっこ教室やゲストをお招きした講演会など多様な講座を開催しています。

●オープンアーカイブ

都留で撮影された過去の写真など貴重なデジタル資料を管理・運営しています。

●駅展示 (つるフィールド・ミュージアム分館)

富士急行線都留文科大学前駅の駅舎で、都留の自然や文化を紹介する展示をしています。展示制作は誰でも参加できます!



●ふらっとはうす

富士急行線谷村町駅の駅舎を活用した子どもたちの居場所づくりの活動です。宿題教室やクリスマス会なども開催しています!

●富士急行・都留市との三者連携による 富士急行線沿線地域活性化プロジェクト

富士急行線沿線地域の活性化を目指し、学生が中心となって観光ツアーを企画実施したり、サイクリングコースを開発しマップを制作したりしています。



●ビオトープ整備活動

新棟まわりのビオトープ整備を行う活動です。お茶会や句会も行い楽しみながら整備します。



●キャンパス生きものMap

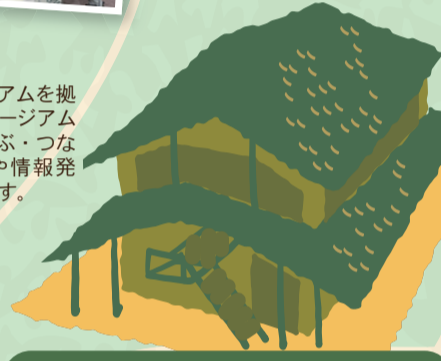
キャンパスは生きもの宝庫!さまざまな動植物をMapにまとめ、生物多様性の高いキャンパスを目指します!

●植物保全の会

キャンパスの生物多様性を高め、生きもの賑わいが感じられる空間にしましょう!

●ロハ台倶楽部

つるフィールド・ミュージアムを拠点にした学生によるミュージアム活動です。「楽しむ・学ぶ・つながる」をテーマに展示や情報発信、交流活動を行っています。



つるフィールド・ミュージアム

●都留文科大学前駅

都留文科大学前駅



●つるふんカフェ

地域のカフェを会場に、現代社会の問題や文学・芸術にまつわるテーマで、学生や市民、講師がともに学び合う場を目指しています。

●谷村町駅

谷村町駅

●食育つるクッキング塾

楽しみながら食の大切さも学べる、小学生を対象とした調理実習です。

●「フィールド・ミュージアム研究」

学生編集部のメンバーが、地域学習の実践を取材し、冊子を編集・発行します!



●おもな活動色分け分類

- 教育関連活動 (共生教育部門)
- グローカル関連活動 (グローバル交流研究部門)
- 自然関連活動 (自然共生研究部門)
- まちづくり関連活動 (まちづくり研究部門)
- その他の活動

●地域交流研究センター4つの部門とは

地域交流研究センターには、「自然共生研究部門」、「共生教育研究部門」、「まちづくり研究部門」、「グローバル交流研究部門」があります。この4つの部門では、私たちのくらしや自然との共生のありかたなど地域の現代的な課題に即して、自然科学や人文・社会科学といった領域を総合して取り組んでいます。それとともに、地域を担う次代の主体を育成することを目的としたさまざまな教育・研究活動を行なっています。新棟「つるフィールド・ミュージアム」を拠点としながら、都留のまち一帯でさまざまな活動を行っています。

※私たちのフィールドは特定の地域に固定はしませんが、とくに都留を拠点として富士山とその山麓、桂川(相模川)流域に注目して活動しています

●2025年度 市民公開講座一覧

5月25日 いきものかんさつはおもしろい! / 6月20日 介護予防教室 転ばぬ先の杖 / 7月24日 英語であそぼう / 8月2日 ムササビ観察会 / 11月8日 サバイバル・サイエンス・キャンプ / 11月8日 湧水さんぽ / 11月22日 ムササビ観察会 / 11月26日 文大名画座「スーパー 30アワード先生の教室」 / 12月6日 ムササビ観察会(グローバル研究部門) / 12月13日 ムササビ観察会 / 12月21日 親子かけっこ教室 / 12月25日 第1回星空観察会 / 1月21日 巨大な富士山を動かす方法〜一般社団法人カノエサルのやり方〜 / 1月24日 第2回星空観察会